

2019年12月期 決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード：3386)

2020.2.18

www.cosmobio.co.jp



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

ご説明の流れ

1. 会社概要とこれまでの歩み・・・・・・・・・・ p.3
2. 2017年～2019年の3ヶ年計画の
取り組み成果・・・・・・ p.13
3. 新3ヶ年計画の概要・・・・・・・・・・ p.20
4. 決算の概要および業績予想について・・・・・・・・ p.26

1. 会社概要とこれまでの歩み

www.cosmobio.co.jp

© 2020 Cosmo Bio Co., Ltd.

3



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

会社概要

社名:	コスモ・バイオ株式会社
本社所在地:	東京都江東区東陽二丁目2番20号
代表者:	代表取締役社長 櫻井 治久
設立:	1983年8月25日
資本金:	918百万円
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入(一部自社製造)及び国内・海外販売
従業員数:	連結:133名 個別:103名(2019年12月31日時点)
連結子会社:	ビーエム機器株式会社 COSMO BIO USA, INC.
非連結子会社:	株式会社プロテインテック・ジャパン



© 2020 Cosmo Bio Co., Ltd.

4

コスモ・バイオの沿革

- 1978年 丸善石油（現 コスモ石油）でバイオ事業を開始
- 1983年 丸善石油の子会社として「丸善石油バイオケミカル」を設立
- 1986年 社名を「コスモ・バイオ」に変更
- 2000年 MBOによりコスモ石油から独立
- 2004年 「COSMO BIO USA」を設立
- 2005年 ジャスダック市場に上場
- 2006年 「プライマリーセル」を子会社化
- 2010年 「ビーエム機器」を子会社化
- 2013年 物流センターを移転・拡張 「プライマリーセル」を吸収合併（現 札幌事業部）
- 2016年 「プロテインテック・ジャパン」を設立 ペプチド受託製造 鶏卵BR研究
- 2017年 札幌事業所を開設

事業の内容① - 商社 -

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ

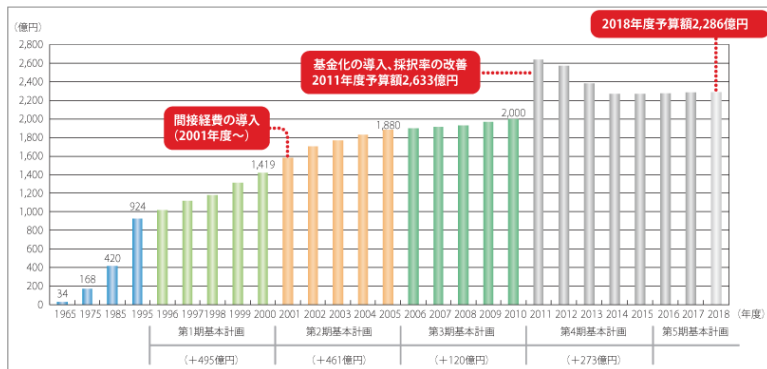


背景の事業環境 – 顧客動向 –

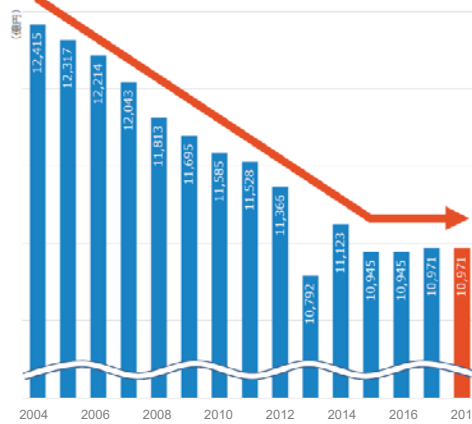
大学・公的研究機関研究費動向

政府予算はほぼ横ばい傾向が続いており、各大学・公的研究機関の予算執行の鈍化傾向は継続。

科学研究費補助金の予算額の推移



国立大学法人運営交付金予算額の推移



(注) 2017年度予算額には、国立大学法人機能強化促進費 (45億円) を含む
(注) 2018年度予算額には、国立大学法人機能強化促進費 (89億円) を含む

企業研究費動向

文部科学省HPより一部改変

医薬品関連企業においては、基礎研究の拠点の統合等の影響があるものの、受託サービス等の需要が増加し、基礎研究分野への資金投資は微増から横ばい傾向が継続。

背景の事業環境 – 市場動向 –

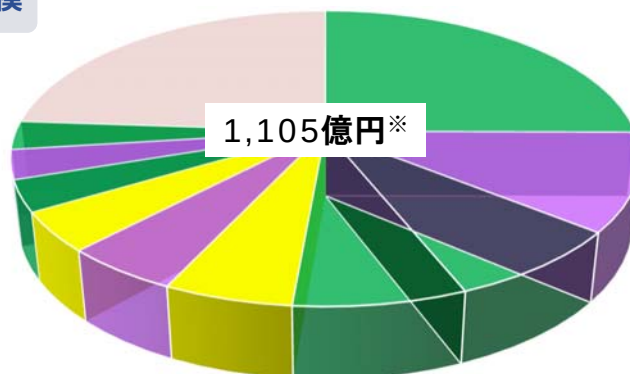
競合会社

市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模

◆競合会社のパターン◆

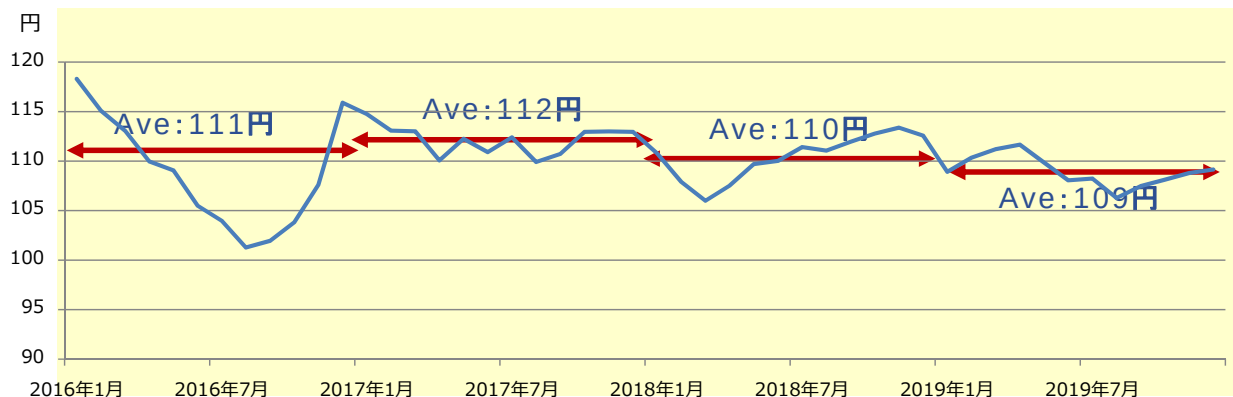
- 1 海外企業の日本法人
- 2 日系大手メーカーの子会社・部門
- 3 商社



※矢野経済研究所2018

背景の事業環境 – 為替環境 –

為替相場



- ・ 為替変動により利益に影響
(円安では仕入原価・コスト高)
- ・ 為替予約により為替変動リスクを軽減

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2016年	2017年	2018年	2019年
111円	112円	110円	109円

事業の内容② – 製造・開発 –

- ✓ 商社事業を軸に、2006年から**製造・開発機能**を取り入れ自社製品・サービスの開発に着手
- ✓ 開発・製造拠点は北海道 (**札幌事業所**)
- ✓ 製造・開発事業は、大きく3つ
 - ① 初代細胞ほか試薬製造・受託試験 (2006年より)
 - ② ペプチド合成受託と抗体作製受託
 - ③ ゲノム編集ニワトリを用いたタンパク質製造 (鶏卵バイオリクター事業)

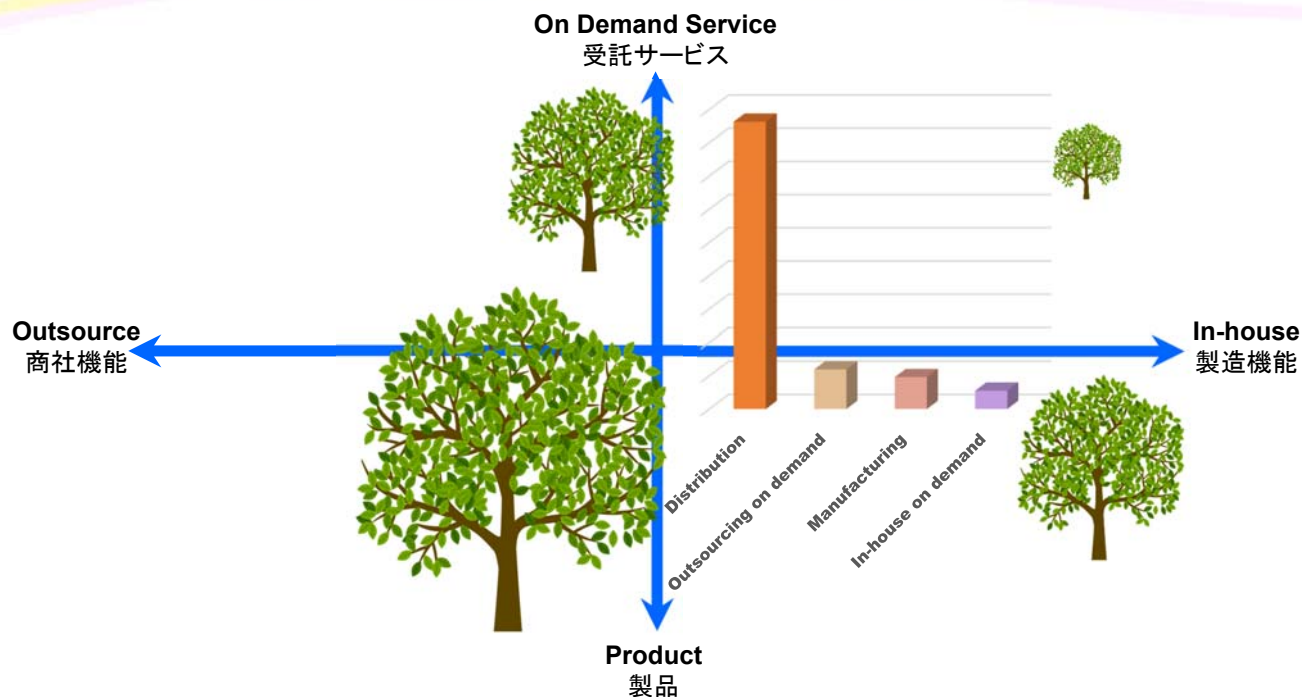
新規事業
2016年より



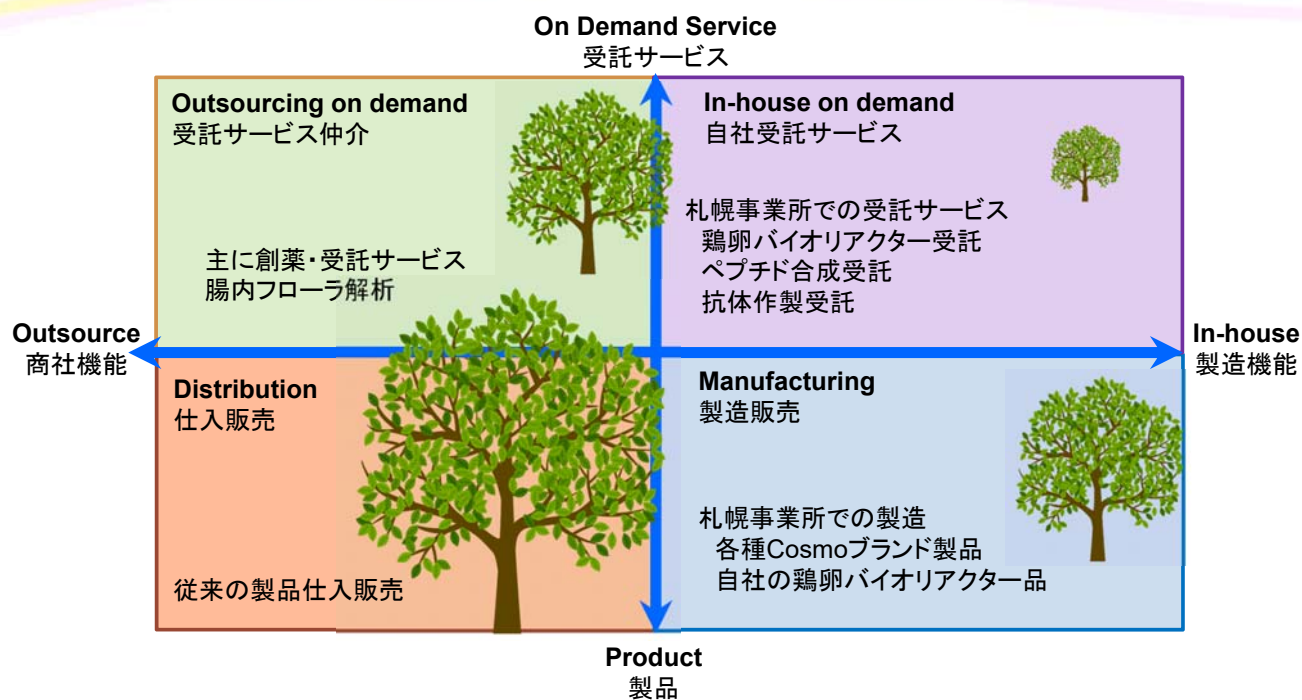
札幌事業所の外観



コスモ・バイオの事業概況マトリックス



コスモ・バイオの事業概況マトリックス



2. 2017年～2019年の3ヶ年計画の 取り組み成果

www.cosmobio.co.jp

2017年～2019年の取り組み（3ヶ年計画）



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

経営ビジョン

『生命科学の研究者から信頼される事業価値を高める』



既存事業基盤の強化

重要課題

安定した事業の成長と新規の技術で
研究者からの信頼を戴く



新たな事業基盤の創出



企業価値の向上

2017年～2019年の取り組み（3ヶ年計画）

既存事業基盤の強化

商社として

情報力

情報の即時発信
製品の性能
法令・納期

製品力

特長のある商品・サービス
適正在庫、納期短縮

提案力

課題解決型営業の強化
ユーザー密着型の
営業体制

メーカーとして

開発力

自社製品・サービス
産学官連携の強化

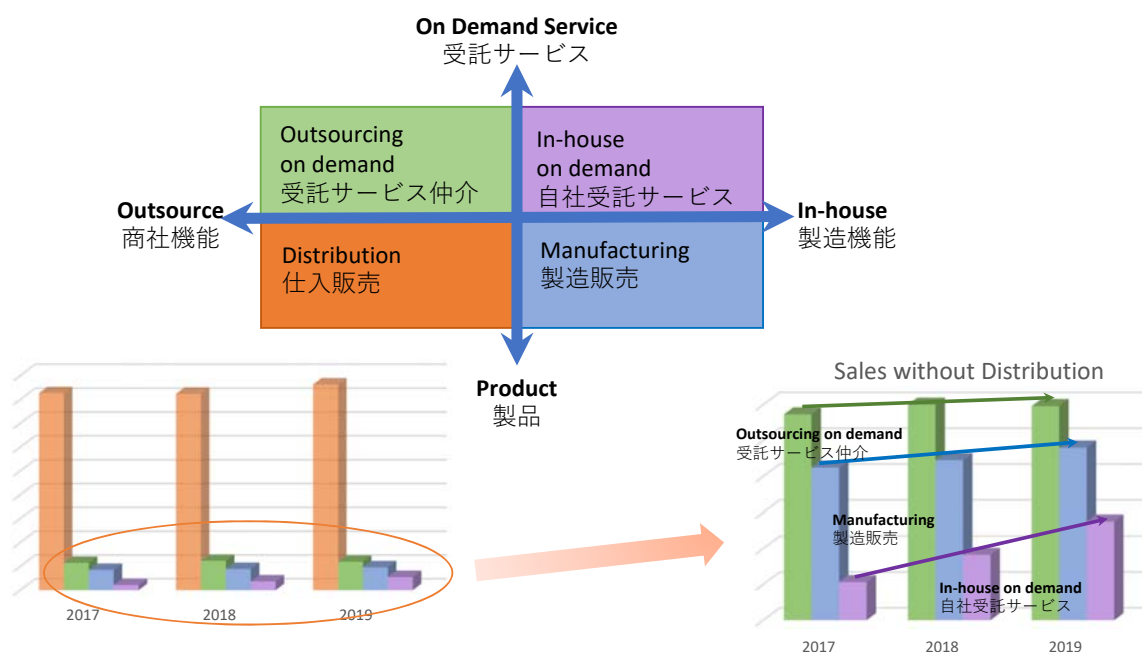
新たな事業基盤の創出

- 新規事業の創出 – 従来とは異なる成長分野を積極的に開拓
- 資本・業務提携 – 競争力の維持・強化、事業拡大、コスト削減

企業価値の向上

- 業務効率化
- 人事評価制度改革
- リスク管理
- CSR活動

2017年～2019年の取り組みの成果と課題



2017年～2019年の取り組みの成果と課題

▶ 営業力の強化と将来の成長に向けた製造事業の土台作りに一定の効果を出せた一方、ユーザーとの関係構築を目的としたCRMの効果的な活用、創出した新規事業の投資回収と収益加速が課題

	成果	課題
情報力の強化	- CRMの導入 - 抗体百科（web版）リニューアル - 商品検索システムリニューアル	顧客情報の効果的な活用
製品力の強化	新商品・受託サービスのラインアップの拡充	
提案力の強化	- 代理店、ユーザー（研究者）への課題解決型営業 - 自社製品・サービスの販売活動強化	
開発力・新規事業の創出	- 札幌事業所の開設 - 各種業務提携による自社事業拡大 - ペプチド合成・抗体作製受託サービス、鶏卵バイオリアクターの事業化	- 新規事業の投資回収と収益加速 - 研究試薬以外の市場への進出
業務効率化	- 主要サーバのDC移設 - 同一オフィスにおけるグループ3社の協働	

【ご参考】ペプチド・抗体作製事業

当社のペプチド・抗体作製事業の拡大

2016年12月	ペプチド・抗体作製事業 開始
2017年12月	(株) Proteomedix Frontiersとの提携 AQUAペプチド
2018年6月	メスキュージェナシス（株）との提携 ペプチド創薬支援
2018年9月	iBody（株）との提携 モノクローナル抗体スクリーニング
2018年10月	(株) エムティーアイとの提携 ペプチド抗原予測システム
2018年11月	(株) Cancer Precision Medicineとの提携 ネオアンチゲン作製



ペプチド合成装置

【ご参考】鶏卵バイオリクター事業

2015年～2018年

- 2015年 産総研・農研機構との共同研究開始
- 2016年 NEDOプロジェクト
- 2017年 ヒト インターフェロン β の製造における
特許実施許諾締結
鶏舎建築
- 2018年 A-STEP 実用化研究
鶏舎増築



ゲノム編集ニワトリを用いたタンパク質の製造技術の優位性を活かし、
量産がメリットとなるタンパク質を
創ることを計画中。

2019年

- ✓ インターフェロン β に限定されない特許実施許諾
(産総研、農研機構)
- ✓ あらたなゲノム編集技術の導入 (C4U)
CRISPR/Cas3技術



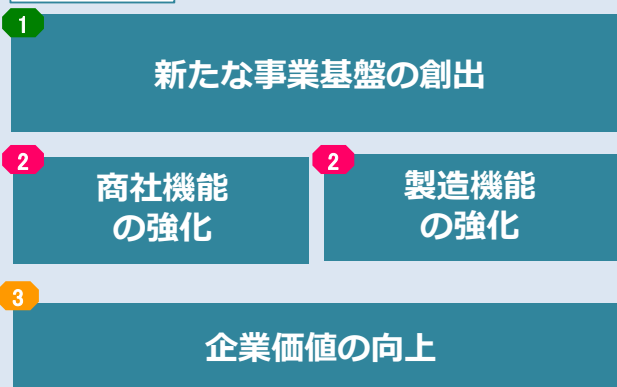
受託製造事業開始：
ユーザーが必要とするタンパク質を安価に大量に製造

3. 新3ヶ年計画の概要 (2020年～2022年)

ビジョン

生命科学の研究者から信頼される
事業価値を高める

事業戦略



目指す姿・目標

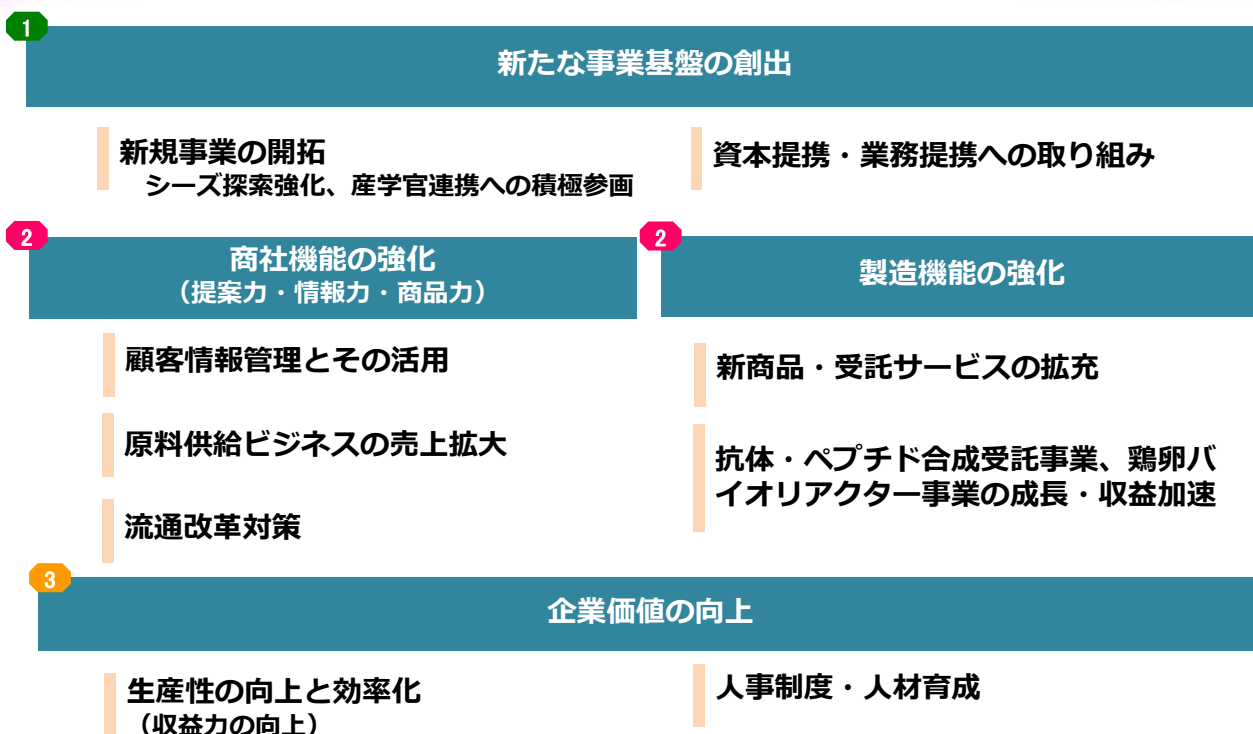
～10年後を見据えた事業戦略

研究試薬卸売(現収益の柱)に加え、第二(製造業? 第一になり得る)の成長の柱をつくる!

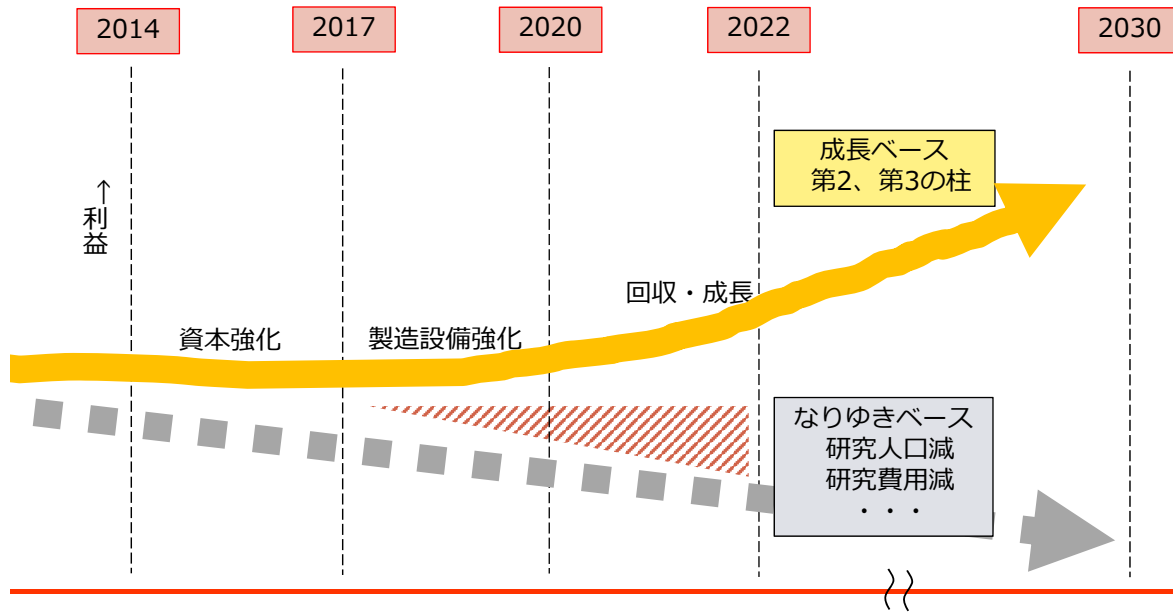
ライフサイエンスをベースに、研究試薬以外の市場へも!

安定した持続的成長を実現する企業に!

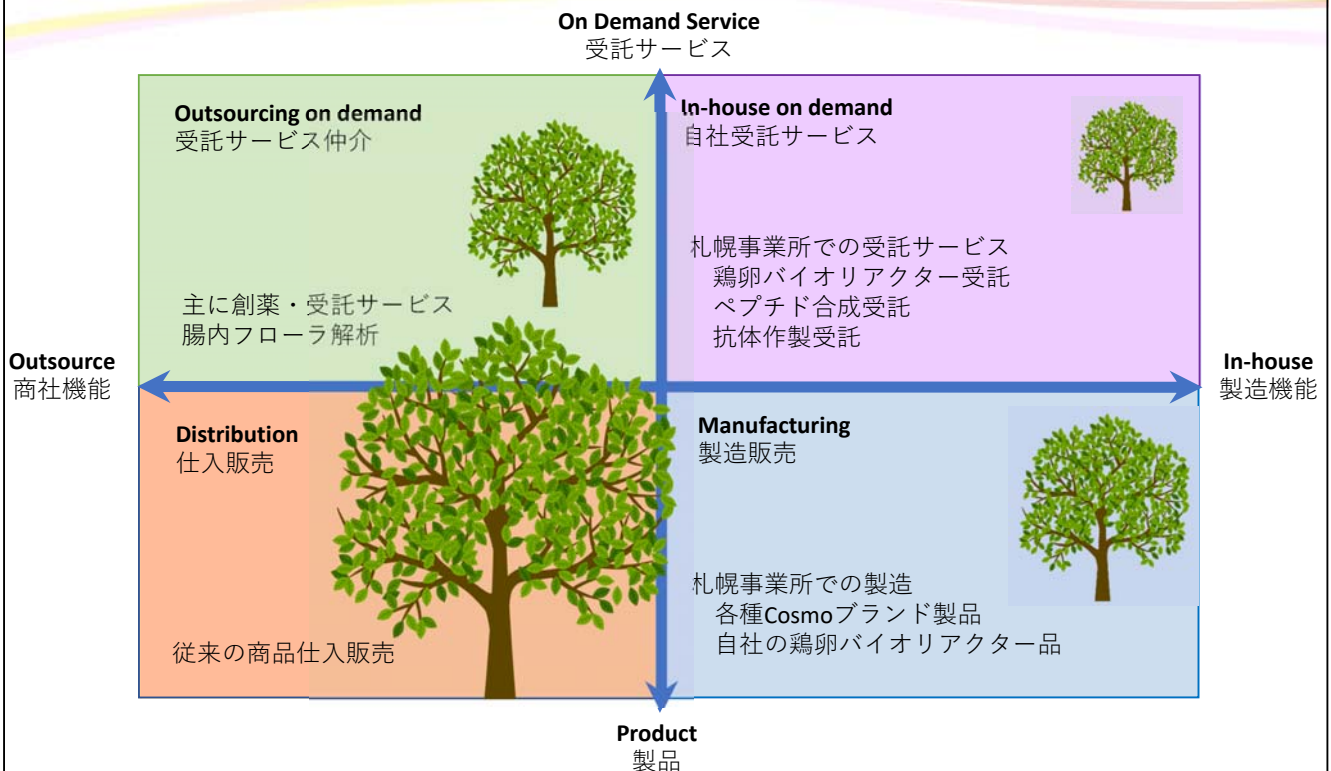
コスモ・バイオの新3ヶ年計画 – 事業戦略 –



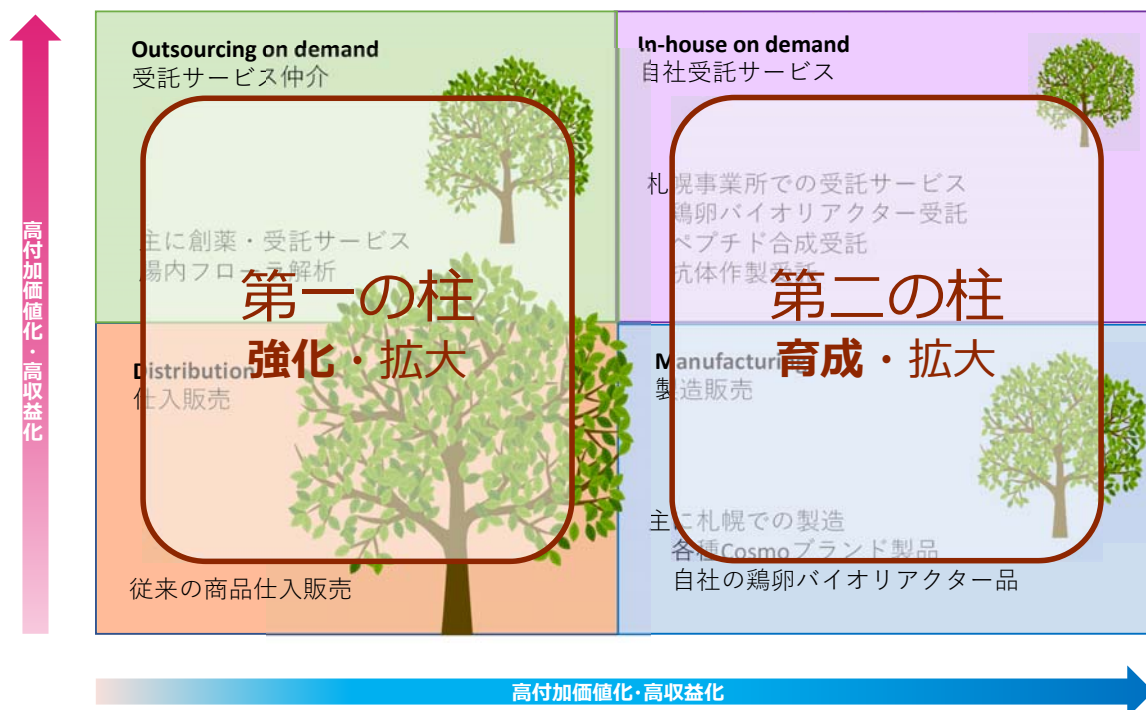
ロードマップ ～こんなふうになりたい～



コスモ・バイオの事業概況マトリックス



コスモ・バイオの事業成長マトリックス



4. 決算の概要および業績予想について

連結決算対象会社について

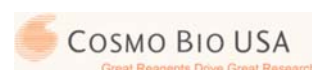
①ビーエム機器株式会社（2010年より連結）



事業内容：ライフサイエンス研究用の機器類、消耗品の輸入および国内販売

コスモ・バイオが研究用試薬を、ビーエム機器が研究用機器・器材・消耗品を扱うことで、試薬と機器両面からの研究サポートを実現

②COSMO BIO USA, INC.（2018年より連結）



事業内容：輸出商品の海外市場での販売全般

コスモ・バイオの輸出品、COSMO BIO USA 独自の仕入先商品の全世界向け（日本を除く）販売を行う

連結損益計算書

（金額単位：百万円）

	2018年	2019年		予想比 増減	前年比 増減	
		予想	実績			
売上高	7,261	7,400	7,590	2.6%	4.5%	注1
売上総利益	2,659	-	2,879	-	8.3%	注2
販管費	2,330	-	2,474	-	6.2%	注3
営業利益	328	350	405	15.9%	23.5%	
経常利益	403	385	470	22.2%	16.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	250	237	△4.8%	△8.6%	注4

注1 代理店とのコミュニケーション強化、エンドユーザー（研究者）への積極アプローチにより売上増。

注2 粗利率は36.6%から37.9%へと若干の増加。為替は前期平均110円/ドルに対し、当期平均109円/ドル。

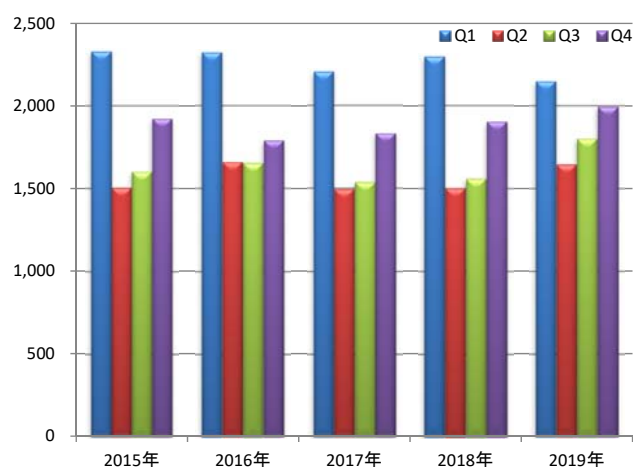
注3 販管費は5月のオフィスフロア移転、2018年にリニューアルした商品検索システムの減価償却費等により、前年比6.2%増。

注4 投資有価証券評価損の計上。

四半期別動向（売上高、経常利益）

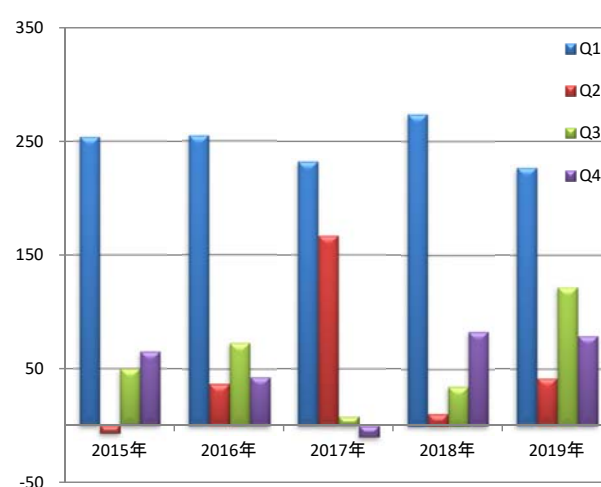
売上高

(百万円)



経常利益

(百万円)

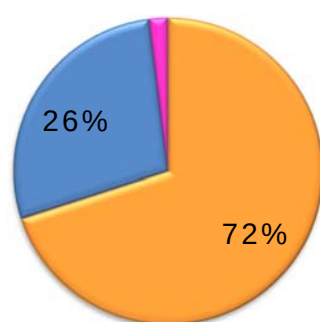


【売上高】従来の四半期別売上高の傾向は、Q1で最も多く、Q2以降階段状に上がってくるパターン。近年、政府予算の一部繰り越しができるようになり、この傾向も緩やかになっている。

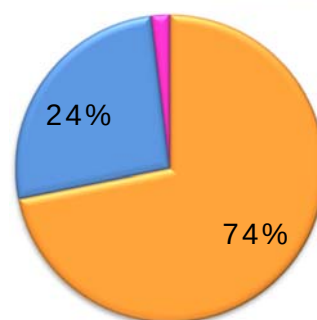
【経常利益】従来の四半期別経常利益の傾向は、Q1で最も利益を稼ぎ出す構造。

商品分類別連結売上高

2018年実績



2019年実績



(金額単位：百万円)

連結	2018年実績		2019年実績		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	5,216	71.8%	5,613	74.0%	397	7.6%
機器	1,903	26.2%	1,836	24.2%	△67	△3.6%
臨床検査薬	141	1.9%	140	1.9%	△0	△0.6%
合計	7,261	100.0%	7,590	100.0%	329	4.5%

傾向として研究用試薬・機器・臨床検査薬の割合に大きな変動はなし。機器販売比率が若干低下。

連結貸借対照表

	(単位：百万円)		
	2018年12月末	2019年12月末	増減額
資産合計	8,485	8,890	404 注1
流動資産計	5,648	5,927	278
固定資産計	2,837	2,962	125
負債純資産合計	8,485	8,890	404
負債計	1,432	1,568	135
純資産計	7,053	7,321	268 注2
自己資本比率	77.5%	77.0%	

注1 資産の増加：商品及び製品△149、現金及び預金+348

注2 純資産の増加：親会社株主に帰属する当期純利益+237、剰余金の配当△82

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)		
	2018年 実績	2019年 実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	908	549	△359 注1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△185	△115	70 注2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△85	△85	-
現金及び現金同等物の増加額	636	348	△288
現金及び現金同等物期末残高	2,068	2,416	348

注1 税前利益+388、たな卸資産+144、減価償却+207、法人税等の支払額△143等

注2 有価証券償還+200、投資有価証券の取得△150、有形固定資産の取得△141等

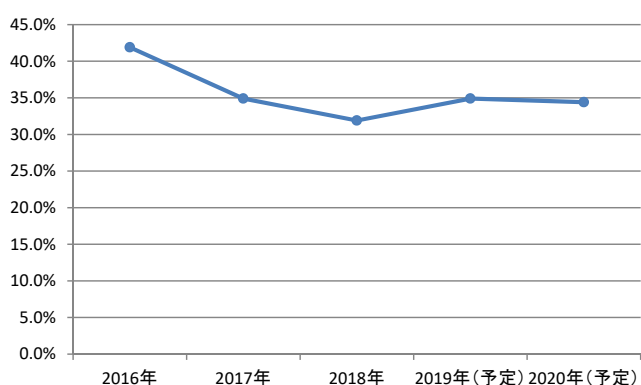
配当について

	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2019年 12月期	6円	8円 (予定)	14円 (予定)
2020年 12月期	8円 (予定)	10円 (予定)	18円 (予定)

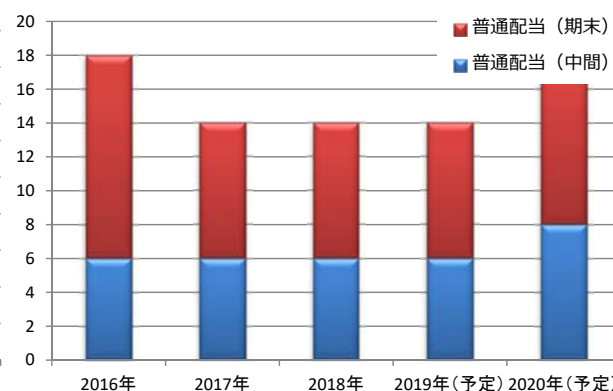
2019年は、2018年と同額を見込んでおります（連結配当性向は34.9%）

2020年度は、増益予想に伴い増配（+ 4 円）を予定しております

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



2020年12月期の連結業績見通し

(金額単位：百万円)

	19/12月期 2Q実績	20/12月期 2Q予想	対前年 同期比	19/12月期 実績	20/12月期 通期予想	対前年 同期比
売上高	3,794	3,900	2.8%	7,590	7,750	2.1%
営業利益	241	250	3.7%	405	430	6.0%
経常利益	269	290	7.5%	470	490	4.1%
親会社株主に 帰属する当期 純利益	179	180	0.3%	237	310	30.3%

平均為替 レート	19/12月期 実績	20/12月期 予想
円/USドル	109円	110円

2020年12月期は増収増益を計画しております

親会社株主に帰属する当期純利益は、2019年度に発生した投資有価証券評価損の計上が2020年度には予定されておらず、増益見込みです

為替は、110円を予想しており、前年比1円の円安です

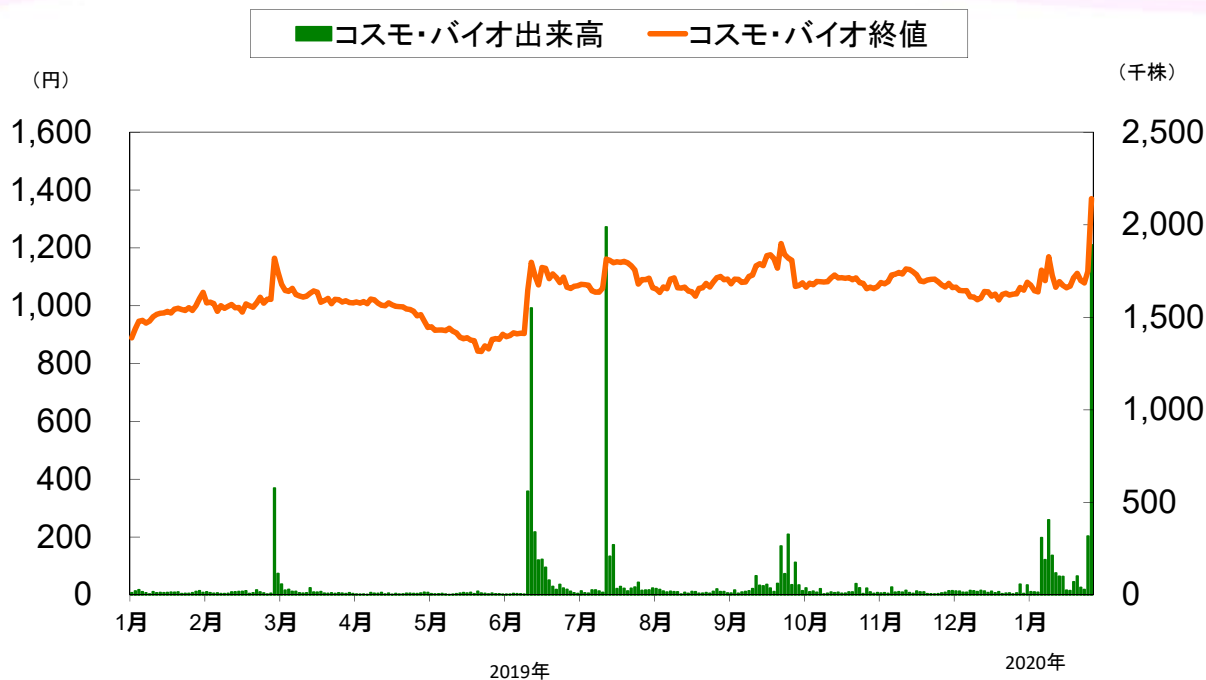
主な連結経営指標等の推移



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
売上高(百万円)	7,357	7,427	7,068	7,261	7,590
経常利益(百万円)	373	483	397	403	470
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	230	254	237	260	237
純資産額(百万円)	6,378	6,581	6,838	7,053	7,321
総資産額(百万円)	7,790	7,934	8,126	8,485	8,890
1株当たり純資産額(円)	1,003.87	1,034.90	1,076.35	1,110.06	1,154.32
1株当たり当期純利益(円)	38.89	42.93	40.15	43.93	40.14
自己資本利益率(%)	3.8	4.2	3.8	4.0	3.5
総資産経常利益率(%)	4.7	6.2	5.0	4.9	5.4
株価収益率(倍)*	27.6	29.2	27.9	20.0	26.1
配当金額(単体)(円)	16	18	14	14	14
配当性向(連結)(%)	41.1	41.9	34.9	31.9	34.9
純資産配当率(連結)(%)	1.6	1.8	1.3	1.3	1.2

* 株価は12月期の末日終値

株価推移 (2019/1/4~2020/2/17)



前日 (2月17日) の終値 : 1,370円

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期するために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 総務部
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<https://www.cosmobio.co.jp/ir>